

文化のいぶき

2019年 3月号 Vol. 145

- 発行：狹山市文化団体連合会
- 所管：狹山市役所
市民部市民文化課

第19回 狹山市民芸術祭 開催される ● ● ●

2月19日(火)から24日(日)にかけて、19回目となった芸術祭が開催されました。今年のテーマは「鼓動」。6日間でのべ3,900人の来場者があり、加盟団体による作品展示や茶席、舞台発表をお楽しみいただきました。

最終日の中ホール公演では「響け和太鼓」と称した和太鼓の競演が行われ、当会所属の太鼓三団体に加えて、ゲストとしてお呼びした東久留米市の『和太鼓 翔巴』、航空自衛隊入間基地の『入間修武太鼓』、そしてプロの太鼓ユニット『打楽～DARAKU～』による、迫力ある和太鼓演奏に700人の観客は魅了されていました。

また、恒例となった大ホールロビーでの模擬店や企画展示も好評で、舞台公演の合間に多くの観客の皆さんにもご覧いただきました。ご来場下さった皆さん、ありがとうございました。



茶席



加盟三団体による合同演奏



迎花



和太鼓 翔巴



入間修武太鼓



打楽～DARAKU～

第19回 狹山市民芸術祭を終えて

「終った。上出来だった。」というものが率直な実感です。

展示部門は、活花・美術関係の会場共意欲的な力作が多く並んで来場者を迎えておりました。

大ホールロビーの特別展示では、適切な紹介文と写真・資料で、「狹山ゆかりの文化人」を浮き彫りにし、「思い出の一皿」は皿に書かれた参加市民の言葉が、壁面狭しと踊っていて盛況でした。

小ホールでは、たゆまぬ練習の効果が發揮された演技・演奏が繰り広げられていて好評でした。

大ホール和太鼓の競演は、どの団体も力演で聴衆をたのしませており、殊にプロの「打楽」による太鼓と笛の協奏は、四人の息がピタリと合って芯のとおった高質な響きが、満場の心を捉えて見事でした。

そして迎え花と茶席は、来場者の気持ちを充分に和ませておりました。

今回の芸術祭の実現にも、会長はじめ各実行委員の労を厭わぬ献身的な活動がありました。数多ある仕事をそれぞれの担当者が精力的にこなし、一丸となった協力態勢で完成させた芸術祭でした。

多数の来場者を見、ご満足いただけた今回の芸術祭は、大成功であったと言ってよいのではないでしょうか。私たちが当初から目指した目的が達成されたわけで、文団連会員一同みんなこの喜びを分かち合いたい。そして活躍した実行委員諸氏に、拍手を贈りたいと思います。

結びに、ご来場の皆様と今回の祭典に関わりのあった全ての方々に感謝の意を表し、御礼申し上げて締めくくりの言葉に代えたいと存じます。

第19回市民芸術祭 実行委員長 水村 昭

